

正誤表

□コマンドリファレンス構成定義編 V2

項番	訂正箇所	訂正内容												
1	<p>9.4.8 lan vrrp group trigger node</p> <p>[オプション]</p> <p><interface> ICMP ECHO パケットを送出するインタフェースを指定します。 <dst_addr>が IPv6 リンクローカルアドレスの場合は lan インタフェースも指定可能です。 それ以外では以下となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタフェース名 rmt インタフェースを以下の範囲で指定します。 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">範囲</th> <th style="text-align: center;">機種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>rmt0~rmt249</td> <td>Si-R G200</td> </tr> <tr> <td>rmt0~rmt99</td> <td>Si-R G100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ any パケット送出インタフェースを特定しない場合に指定します。 	範囲	機種	rmt0~rmt249	Si-R G200	rmt0~rmt99	Si-R G100	<p>9.4.8 lan vrrp group trigger node</p> <p>[オプション]</p> <p><interface> ICMP ECHO パケットを送出するインタフェースを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタフェース名 rmt インタフェースを以下の範囲で指定します。 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">範囲</th> <th style="text-align: center;">機種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>rmt0~rmt249</td> <td>Si-R G200</td> </tr> <tr> <td>rmt0~rmt99</td> <td>Si-R G100</td> </tr> </tbody> </table> <p><dst_addr>が IPv6 リンクローカルアドレスの場合は lan インタフェースも指定可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ any パケット送出インタフェースを特定しない場合に指定します。 any を指定した場合、送出先インタフェースは経路情報に依存します。 	範囲	機種	rmt0~rmt249	Si-R G200	rmt0~rmt99	Si-R G100
範囲	機種													
rmt0~rmt249	Si-R G200													
rmt0~rmt99	Si-R G100													
範囲	機種													
rmt0~rmt249	Si-R G200													
rmt0~rmt99	Si-R G100													
2	<p>19.1.3 acl ip</p> <p>[オプション]</p> <p><protocol> ACL 対象とするプロトコル番号を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトコル番号 ACL 対象とするプロトコル番号を、0~255 の 10 進数で指定します (例:ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。 ・ any すべてのプロトコル番号を ACL 対象とする場合に指定します。 0 を指定するのと同じ意味になります。 ・ dynamic クラウドサービスゲートウェイ機能で、あて先 IP アドレスが動的に決定する場合に指定します。 省略時は、any を指定したものとみなされます。 <p><type> ACL 対象とする QoS の判断する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ tos TOS 値で ACL 対象を判断する場合に指定します。 ・ dscp DSCP 値で ACL 対象を判断する場合に指定します。 ・ any すべての TOS 値、すべての DSCP 値を ACL 対象とする場合に指定します。 <p>省略時は、any を指定したものとみなされます。</p> <p><value> ACL 対象とする TOS 値、または DSCP 値を指定します。</p> <p>[注意]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <dst_addr>/<mask>に“dynamic”を指定した場合、その ACL は Ingress ポリシールーティング設定以外には使用しないでください。 	<p>19.1.3 acl ip</p> <p>[オプション]</p> <p><protocol> ACL 対象とするプロトコル番号を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロトコル番号 ACL 対象とするプロトコル番号を、0~255 の 10 進数で指定します (例:ICMP:1、TCP:6、UDP:17 など)。 ・ any すべてのプロトコル番号を ACL 対象とする場合に指定します。 0 を指定するのと同じ意味になります。 省略時は、any を指定したものとみなされます。 <p><value> ACL 対象とする TOS 値、または DSCP 値を指定します。 tos、dscp オプション省略時は any を指定したものとみなされ、すべての TOS 値、すべての DSCP 値を ACL 対象とします。</p> <p>[注意]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <dst_addr>/<mask>に“dynamic”を指定した場合は、クラウドサービスゲートウェイ機能で、あて先 IP アドレスが動的に決定する場合に指定します。この ACL 定義は Ingress ポリシールーティング設定以外には使用しないでください。 												

正誤表

3	<p>19.1.4 acl ipv6</p> <p>[オプション]</p> <p><type></p> <p>ACL 対象とする QoS の判断する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ tc Traffic Class 値で ACL 対象を判断する場合に指定します。 ・ dscp DSCP 値で ACL 対象を判断する場合に指定します。 ・ any すべての TOS 値、すべての DSCP 値を ACL 対象とする場合に指定します。 省略時は、any を指定したものとみなされます。 <p><value></p> <p>ACL 対象とする Traffic Class 値、または DSCP 値を指定します。</p>	<p>19.1.4 acl ipv6</p> <p>[オプション]</p> <p><value></p> <p>ACL 対象とする Traffic Class 値、または DSCP 値を指定します。 tc、dscp オプション省略時は any を指定したものとみなされ、すべての Traffic Class 値、すべての DSP 値を ACL 対象とします。</p>
---	--	---

コマンドリファレンス—運用管理編 V2

項番	訂正箇所	訂正内容
1	<p>1.3.2 save</p> <p>[説明]</p> <p>編集中の構成定義情報(candidate-config)を指定したファイルに保存します。 ファイル名の省略時は、起動時の構成定義ファイルに保存します。</p>	<p>1.3.2 save</p> <p>[説明]</p> <p>編集中の構成定義情報(candidate-config)を指定したファイルに保存します。 ファイル名の省略時は、起動時の構成定義ファイルに保存します。 なお、起動時の構成定義情報(startup-config)が保存されている構成定義ファイル名(config1/config2)は、“show system information”コマンドの Startup-config の項を確認してください。</p>
2	<p>4.1.3 show ether statistics</p> <p>[実行例]</p> <p>detail 指定時の実行例</p> <p>2-4) Tag 付き vlan 登録したポートに Tag なしフレームを受信した場合に 破棄された受信フレーム数 または、受信破棄設定により破棄された受信フレーム数</p> <p>2-5) backup 設定により待機ポートとなったポートで廃棄された受信フ レーム数 または、STP がフォワーディング状態でないことにより廃棄された 受信フレーム数</p>	<p>4.1.3 show ether statistics</p> <p>[実行例]</p> <p>detail 指定時の実行例</p> <p>2-4) Tag 付き vlan 登録したポートに Tag なしフレームを受信した場合に 破棄された受信フレーム数 または、受信破棄設定により破棄された受信フレーム数 または、backup 設定により待機ポートとなったポートで廃棄された 受信フレーム数</p> <p>2-5) STP がフォワーディング状態でないことにより廃棄された受信フ レーム数</p>
3	<p>36.1.3 show trace ike</p> <p>[実行例]</p> <p>7) Exchange Type 以下の Exchange Type が表示されます。 NONE : 交換なし Base : Base モード Identity Protection : Identity Protection モード Authentication Only : Authentication Only モード Aggressive : Aggressive モード Informational : Informational モード Quick : Quick モード New group : New group モード Acknowledged Informational : Acknowledged Informational モード</p>	<p>36.1.3 show trace ike</p> <p>[実行例]</p> <p>7) Exchange Type IKE Version1 の場合は以下が表示されます。 NONE : 交換なし Base : Base モード Identity Protection : Identity Protection モード Authentication Only : Authentication Only モード Aggressive : Aggressive モード Informational : Informational モード Quick : Quick モード New group : New group モード Acknowledged Informational : Acknowledged Informational モード IKE Version2 の場合は以下が表示されます。 IKE_SA_INIT : IKE_SA_INIT 交換 IKE_AUTH : IKE_AUTH 交換 CREATE_CHILD_SA : CREATE_CHILD_SA 交換 INFORMATIONAL : INFORMATIONAL 交換</p>

正誤表

□メッセージ集 V2

項番	訂正箇所	訂正内容
1	<p>1.28.6 NAT トラバーサル関連システムログ</p> <p>[メッセージ]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">isakmp: Vendor ID for NAT traversal which is not supported was received.</div> <p>[意味]</p> <p>受信した NAT トラバーサルのベンダ ID はサポートされていないことを示します。</p> <p>このメッセージは、ISAKMP SA のネゴシエーションデータ受信時に、自身が NAT トラバーサルを使用していて、相手から自身がサポートする NAT トラバーサル用のベンダ ID を 1 つも受信できなかったときに出力されます。</p>	<p>1.28.6 NAT トラバーサル関連システムログ</p> <p>[メッセージ]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">isakmp: Vendor ID for NAT traversal which is not supported was received.</div> <p>[意味]</p> <p>受信した NAT トラバーサルのベンダ ID はサポートされていないことを示します。</p> <p>このメッセージは、ISAKMP SA のネゴシエーションデータ受信時に、自身が NAT トラバーサルを使用していて、相手から自身がサポートする NAT トラバーサル用のベンダ ID を 1 つも受信できなかったとき、または、自身がサポートする NAT トラバーサル用のベンダ ID 以外を受信したときに出力されます。</p>
2	<p>1.30 接続先セッション監視のメッセージ</p> <p>[メッセージ]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">icmpwatchd: ap watching host is up. [<target>]</div> <p>[意味]</p> <p>接続先セッション監視の監視ホスト、または接続回線の障害が復旧したことを示します。</p> <p>[パラメタの意味]</p> <p><target></p> <p>ネットワーク名: 接続先名 (接続先が相手情報設定の場合)</p> <p>テンプレート名: 接続先識別子 (接続先がテンプレート情報設定の場合)</p>	<p>1.30 接続先セッション監視のメッセージ</p> <p>[メッセージ]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">icmpwatchd: ap watching host is up. [<target>]</div> <p>[意味]</p> <p>接続先セッション監視の監視ホスト、または接続回線の障害が復旧したことを示します。</p> <p>接続先がテンプレート情報設定の場合は、出力されません。</p> <p>[パラメタの意味]</p> <p><target></p> <p>ネットワーク名: 接続先名 (接続先が相手情報設定の場合)</p>